

Plasma TNF- α level before treatment predict subsequent remission in patients with depression treated with duloxetine.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 枝里子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31553

Plasma TNF- α level before treatment predict subsequent remission in patients with depression treated with duloxetine.

治療前の血漿 TNF- α 値は duloxetine により治療されたうつ病患者の症状寛解を予測する

東京女子医科大学大学院
内科系専攻精神医学学分野
(指導：石郷岡 純教授)
鈴木 枝里子

【要旨】

治療前の血漿 interleukin-6 (IL-6) 値と tumor necrosis factor - alpha (TNF- α) 値が最終的な寛解の予測因子になるかどうかについて検討した。効果判定は Montgomery Asberg Depression Rating Scale (MADRS) を用いた。選択基準は DSM-IV のうつ病診断基準を満たし、かつ MADRS 総得点 20 点以上を有する 18 歳以上の男女とし、現エピソードに前薬として抗うつ薬の使用のない者とした。臨床試験期間は 16 週間として 4 週毎にうつ病症状を評価した。また、開始時と 16 週目に採血を行い、血漿 TNF- α 値と IL-6 値を測定した。Duloxetine の開始用量は 20 mg/日とし、臨床症状に応じて、最大 60 mg/日まで増量可能とした。寛解を MADRS スコア 10 点以下と定義し、治療前の血漿 IL-6 値、TNF- α 値と 16 週目における寛解との相関関係の有無について、ロジスティック回帰分析を用いて解析した。尚、この研究は東京女子医科大学倫理委員会の承認を得ている。同意が得られた 106 人の患者の内、最低 1 回の臨床評価と採血が得られた 66 人を解析対象とした。多変量解析の結果、治療前の血漿 TNF- α が低値であること、男性であること、高齢であることが 16 週目における寛解と有意な相関があることが分かった。